エム・シー・フーズ

原料起点の製造分野へチャレンジ サステナビリティ推進を加速

▲エム・シー・フーズの手代木和人社長

飲料・嗜好品のワンストッププロバイダーを標榜するエム・シー・フーズは、原料商社として、三菱商事グループのグローバルな供給力を生かした素材提供（プロダクトアウト）を行うのみならず、ファブレスメーカーとして、生活者のニーズをとらえたマーケットインを融合し、原料から最終製品までのソリューション提案を行っている。

その中で近年注力しているのは、「優れた素材を生かした原料起点の製造分野へのチャレンジ」。その原点にあるのが、当社に脈々と引き継がれた「ものづくり」の歴史である。

エム・シー・フーズは、ともに大正中期に祖業した日本紅茶（株）と（株）住田物産を前身とする100年の歴史を有する会社で、その内、日本紅茶（株）は1917年3月、大谷嘉兵衛と中村円一郎が中心となり日本最初の紅茶会社として静岡県安西に設立された。

当社が昨年11月に開設したECサイト「Tips of TEA」には、その日本紅茶（株）のDNAが受け継がれているという。ここでは、ティーエキスパート、全国茶審査技術競技大会有段者、ティーインストラクターの資格を持つ同社のエキスパートが厳選した希少茶葉を数量限定で発売している。

エム・シー・フーズは、これまでも積極的に取り組んできたSDGsの推進を、親会社三菱食品が中期経営計画2023で示した「サステナビリティ重点課題の解決」と読み替え、今まで以上に注力していくという。それを象徴する商品が、高品質な100％スリランカ産茶葉のみで作られたピュアセイロンティー「マブロック紅茶」である。

マブロック社が関与する茶耕作面積はスリランカ全体約5％の約1万haで年間生産量はスリランカ全体の約7％の約2万tとなっている。レインフォレスト・アライアンスの認定を受けた茶園が多く、茶摘みから製造・包装まで一貫して行えることを特長としている。

マブロック社は、人々の生活維持と環境保全を伝統的なお茶作りの中心に据えて地域社会の発展に取り組んでおり、エム・シー・フーズもこの活動を支援している。

その一例として「Tea without Tears（涙のないお茶作り）」キャンペーンや「A Home for Every Worker（すべての労働者に家を）」プログラムがあり、これらの活動を通じて、従業員とその家族が健康的な生活を築けるように支援している。

環境面では、植林活動やリサイクル施設を設けて環境保護に取り組んでいる。

手代木和人社長はその狙いについて「ECサイト“Tips of TEA”では、徹底的にこだわった茶葉を空輸で取り寄せ手作業で販売している。これが品質に妥協を許さない我々の原点であり、日本紅茶（株）を源流とした“ものづくり機能”である。わが社が取扱う飲料・嗜好品は、今回のコロナ禍においても、人々に一服のやすらぎを与えることが出来ることを実感した。紅茶・緑茶に留まらず、わが社スペシャリストの技量と知見を活かした飲料、スイーツ、乳製品等の原料・製品を、生活者の幸福と豊かな社会の実現のためにお届けし続けたい」と説明する。